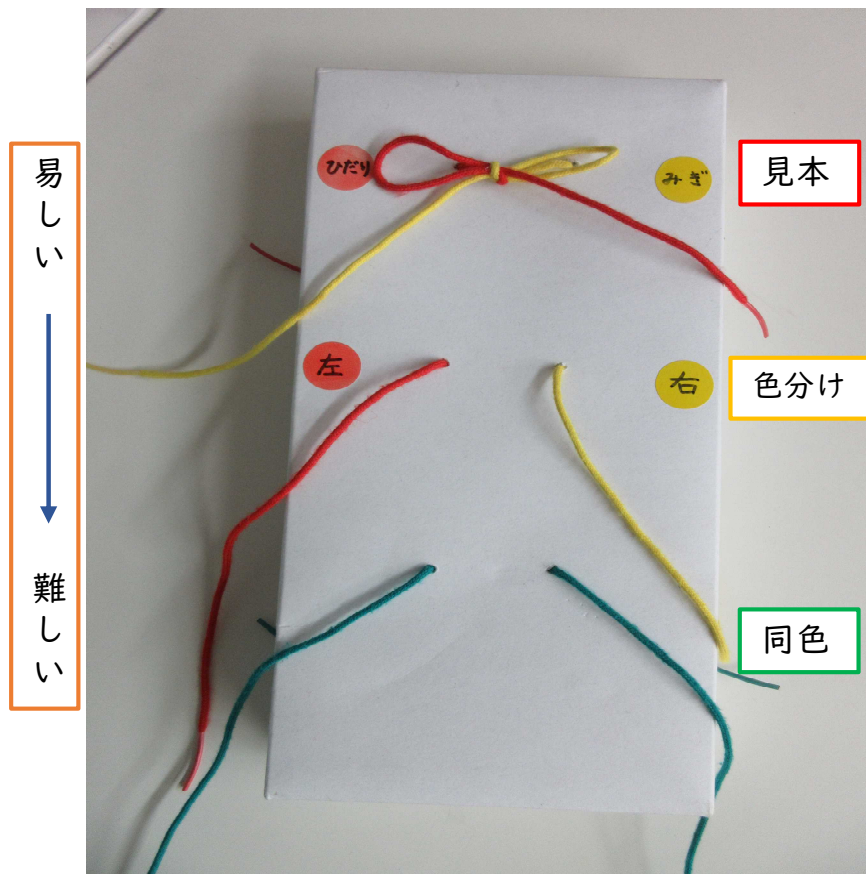


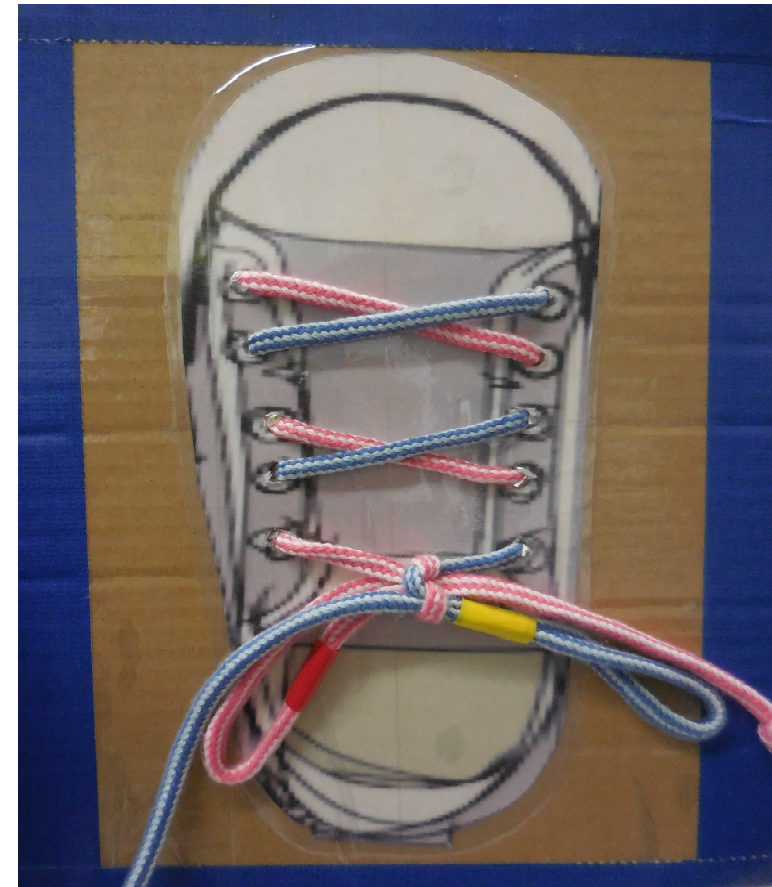
その他の自作教材例① (ひも結び練習ツール)



基本編



- 1番上の見本を参考にし、2段目に色分けしたひもで練習した後、3段目は同じ色のひもで練習するように工夫した教材。
- ひもの色を変えることにより、視覚的に手順が分かりやすく操作しやすい。また、スモールステップで難易度を上げることができるので、子どもが抵抗なく取り組むことができる。

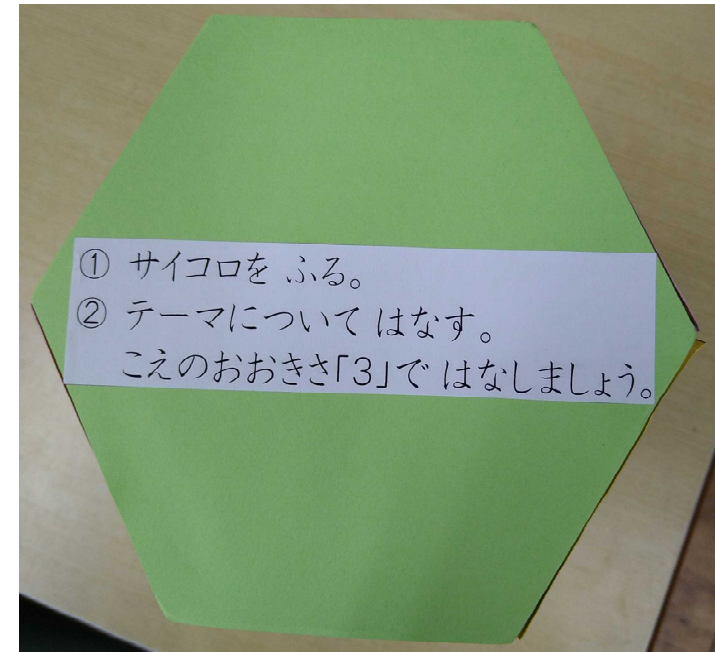


応用編



- 実際に靴ひもを結ぶ場面をイメージし、練習することができる教材例。ひもの色を変えることにより、視覚的に手順が分かりやすく操作しやすい。

その他の自作教材例②（テーマトーク サイコロ）



- お菓子の空き箱を活用した自作教材。6つの面にテーマ内容を貼り付け、2つの面にルールと台本を貼り付けている。
- テーマの内容を子どもの興味関心に合わせてアレンジすることで、意欲的に活動に参加することができるため、楽しみながら会話のやりとりを経験したり、コミュニケーションの力を高めたりすることができる。自立活動でSSTを取り上げるときの教材としても活用することができる。

その他の自作教材例③（トークンエコノミーシステム例）

〇〇君の約束

- 朝7:15に家を出る。
- 帰ってきたら「ただいま」と言う

③



〇が	ねがいごと
11～14	→ 3こ
8～10	→ 2こ
5～7	→ 1こ
0～4	→ 0こ

	7:15に家 を出る。	「ただい ま」
月	○	○
火	○	○
水	○	○
木	○	○
金	○	○
土	○	○
日	○	○

①

②



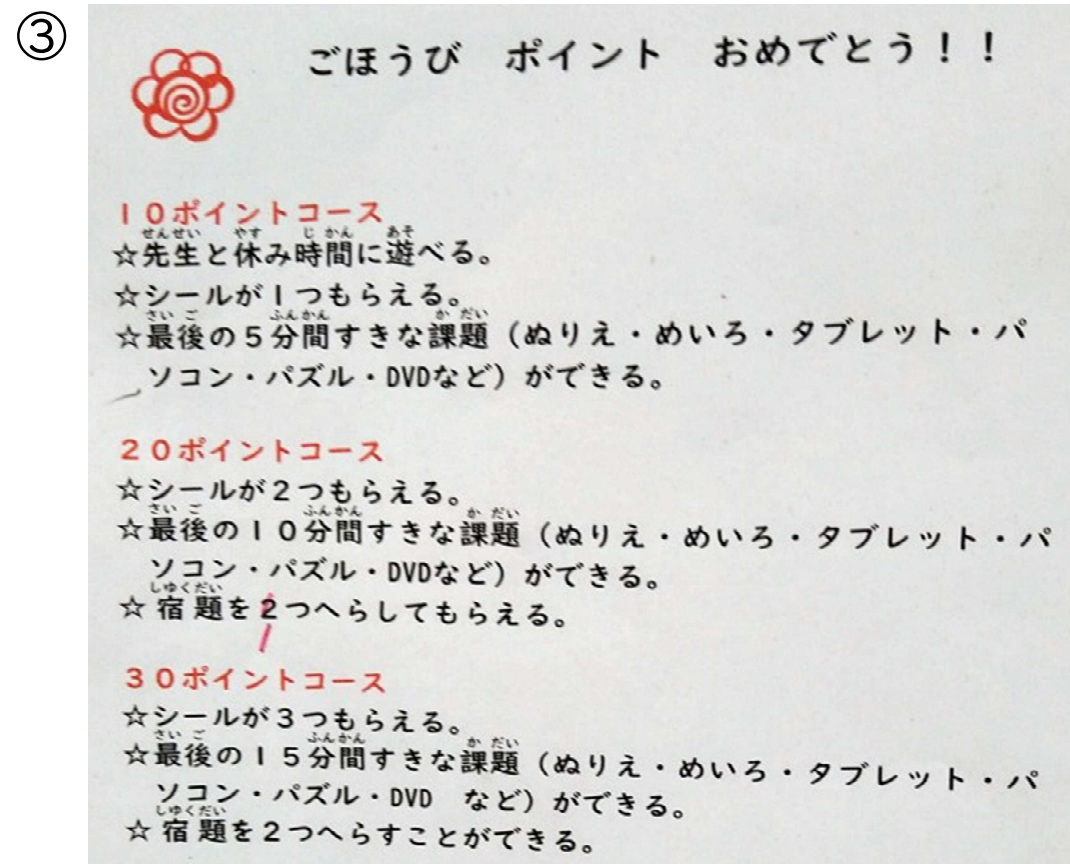
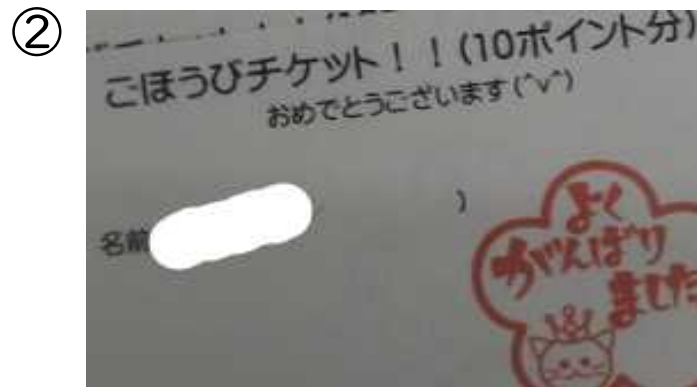
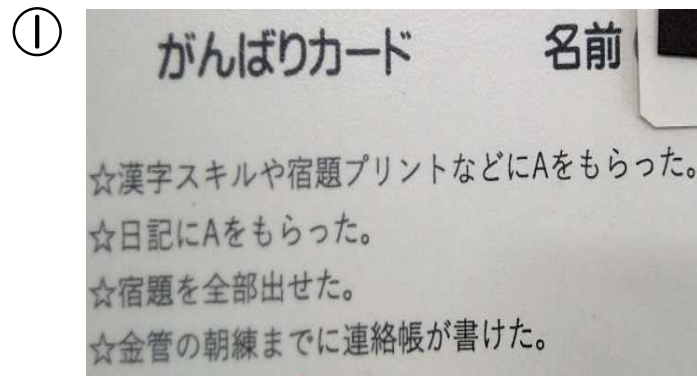
↑約束（めあて）の掲示例

- 子どもが、約束①の内容を達成すると、〇印②を家の人や先生からもらうことができる。〇印でポイントを貯めると、ポイント分のコースに応じた願いごと③を得ることができる。子どものモチベーションが高まり、行動パターンが習慣化することにつながるトークンエコノミーシステム例。（この例では、約束の内容が、保護者との協力が特に必要な例であるので、ごほうびがお菓子になっている。※約束やごほうびは学校で取り組みやすいものを設定することが多い。）

☆ 行動契約法

子どもの新しい行動パターンを習慣化させ、適切な行動を増やす方法である。トークンは、もともと経済学の概念における代用貨幣とされ、ここでは、子どものできていること（モチベーション等）を習慣化するときを使う。トークン（ポイント、シール等）を集めることにより、ごほうびと交換できるシステムを用いて、「どのような行動を」「いつ」「どこで」「どのような期間で」「約束（めあて）が守れたときのごほうびは何にするか」といった明確な取り決め（行動契約）をして行う。

その他の自作教材例④（トークンエコノミーシステム例）



- 子どもが、がんばりカード(①)の内容を達成すると、ごほうびチケット(②)を先生からもらうことができる。ごほうびチケットでポイントを貯めると、ポイント分のコースに応じた特典(③)を得ることができる。子どものモチベーションが高まり、行動パターンが習慣化することにつながるトークンエコノミーシステム例。

その他の自作教材例⑤（行動支援カード）



- 指示や支援内容をイラスト等に表してカードにしたものを束ね、子ども自身や教員が持ち歩いて活用する。儀式的行事中等、口頭で伝えることが難しい場面や、平常時と違う状況により気持ちが不安定になりがちな場面等で活用されることが多い。目に見える分かりやすいカードの提示により、子どもが次の行動を確認することができたり、助けてほしい内容を伝えることができたりし、安心して活動に参加することができる。